



あとがき



『人間は考える葦である』とパスカルは述べた。Steven WeinbergのThe Discovery of Modern Science (邦題：科学の発見) を読んで、知的探求心は人類の本能的欲求であることを再認識させられた。この本の内容は科学哲学としてはナイーブすぎると感じるが、講義を生で聞けるテキサス大学オースティン校の学部生は幸いである。

他方、遺伝子組み換えで成長速度が2倍以上となるアトランティックサーモンの切り身がカナダのスーパーマーケットで実際に売られていることや、ヒトの臓器をブタの体内で作る研究が最近話題となったが、この人類の知的探求心はどこまでいくのだろうか。2017年ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロのNever Let Me Go (邦題：私を離さないで) の臓器提供クローンを想起させられる。

核データ研究は、これからどのように発展するのかは予想できないが、統一された標準理論によって、核子内部のダイナミクスや核子-核子相互作用を第一原理から説明できる方法が解明されると飛躍的な進歩が期待できると思われる。核データニュースの紙面で新たな知見を知る喜びを読者に分かち合っていたいただきたいと切望する。

山野 直樹 2018年5月

日本原子力学会核データ部会

核データニュース編集小委員会

喜多尾憲助 (元放医研)、山野直樹 (RADONet)、石川 眞 (原子力機構)、
岩本 修 (原子力機構)、大塚直彦 (IAEA)、金 政浩 (九大)、
小浦寛之 (原子力機構)、中村詔司 (原子力機構)、横山賢治 (原子力機構)、
柴田 恵一 (委員長、原子力機構)